



# 2020 11月園だより

認定こども園 下関短期大学付属第二幼稚園  
山口県下関市彦島塩浜町2丁目2-21 ☎ 083(266)5821

## 虐待...ぜひSOSを

先日の運動会では、新型コロナの感染予防対策により、保護者の皆様には何かとご不自由をおかけしましたが、皆様のご協力のおかげで何とか無事に終えることができました。本当にありがとうございました。

さて、右の手記は、2年前、東京都目黒区で、継父の虐待により幼い命を落とした

船戸結愛（ゆあ）ちゃん（当時5歳）によるものです。度重なる暴力、食事制限に加え、九九や平仮名の練習まで強要され、覚えての平仮名で両親に許しを請う、けなげで悲痛な叫びに心が痛みました。発見時、体には170か所以上の傷やあざ。なのに誰も救ってやれませんでした。

この事件をきっかけに児童福祉法や児童虐待防止法が改正され、国民には、虐待を発見したら速やかに児童相談所等に通告する義務が課せられ、また、児童相談所には、子どもを一時保護する任務と保護者対応の任務を完全分離するなど、機能強化が図られました。それにより、子ども虐待は減ってきたかという、減るところか増え続けています。しかも、今年は新型コロナの影響により親子が自宅で過ごす時間が増えたためなのか、今なお増え続けているそうです。

本園におきましても、お子様に被虐待を疑ってしまう何らかの異変が見られた際には、その日のうちに児童相談所等に通告させていただくことをご承知おきください。ただし、通常は保護者に事情をお尋ねした上で判断します。

本園の子どもたちは、みんな元気に園生活を楽しくしています。ご家族の皆様から深い愛情が注がれているのがよくわかります。しかし、虐待という魔物は突然現れ牙をむくことがあります。最近話題の「ケーキの切れない非行少年たち」（宮口幸治著 新潮新書）によると、虐待してしまう親の特徴として一般的には、生真面目で、“こうあるべき”といった固定観念が強い、自分の弱みを人に見せない、困っていることを人に相談できない、孤立している、対人関係が苦手、経済的な困窮もある、などがあるそうです。すべてが当てはまらないにしても、多くの親がどれかに該当するのではないのでしょうか。また、子どもの時に虐待を受けた経験のある人が、自分が親になっても同じことをしてしまう虐待の世代間連鎖は高い確率で起こるそうです。

「しつけ」と虐待は紙一重とよく言われます。“しつけの一環として”手を上げるうちに、愛情が憎悪に変わり、極度の恐怖心をおおって子どもを支配しようとしたとき、しつけは虐待に豹変してしまいます。福井大学の友田明美教授によると、虐待を含む広い意味の「マルトリートメント（不適切な養育）」について、子どもの脳の一部を損傷させ、学習意欲や対人関係を含め、何らかの後遺症が大人になっても残ってしまうそうです。育児放棄も全く同様です。

脳が最も発育する幼少期に大切なのは、肉親による愛着の形成以外の何ものでもありません。

結愛ちゃんの母親が獄中に打ち明けた手記「結愛へ」（小学館）には、娘との楽しかった思い出とともに、ひたすら後悔と謝罪の言葉。そこには、身寄りのいない都会で、世間からも親戚からも孤立し、苦悩のどん底で孤独に生きる母子像しか見えてきません。社会の責任を痛感します。

DVに苦しんでいる、育児に行き詰っているときは、ぜひSOSをください。必ず力を尽くします。11月は「児童虐待防止啓発推進月間」です。 （園長 寺本 明生）

ママ もうパパとママにゆわれなくても じぶんから きょうよりかあしたわ  
できるようにするから もうおねがいゆるしてください ゆるして

きのうパパにおこられたこと おべんきょうおしえてもらったのに  
おれいをいわなかった べらんだでたたされた

これまでどんだけあほみたいにあそんだか あそぶんであほみたいだからやめるので  
ぜったいのぜったいおやくそく えいえいおー

もうあしたわぜったいやるんだぞとおもって いっしょうけんめいやって  
パパとママにみせるぞてゆう きもちでやるぞ

（検察側の論告などから作成）